

東久留米の野草(6月から8月までに観察した植物)No.1



アオイ科カラスノゴマ



アカバナ科マツヨイグサ



アジサイ科タマアジサイ



ウマノスズクサ科ウマノスズクサ



オミナエシ科オミナエシ



ガガイモ科ガガイモ



ガガイモ科コバノカメヅル

※カラスノゴマ: 植物名では“カラス”や“イヌ”を冠する場合“役立たず”の意味合い。果実はさや状で長さ3cm程。 6月30日撮影

※マツヨイグサ: 江戸時代に持ち込まれた外来種。市内では生育場所が少ない。 6月23日撮影

※タマアジサイ: 生育地は山地の沢沿い。多摩川から玉川上水、野火止用水へと続く流れが東久留米市内へもたらした“国内外来種”。 8月8日撮影

※ウマノスズクサ[絶滅危惧Ⅱ類]: 生育数は非常に少ない。ジャコウアゲハの食草であり開発地から移植など市民活動で保護されている。 7月21日撮影

※オミナエシ: 東久留米市内の自然地では数年来観察することがなく既に絶滅か。 8月24日個人宅の庭先で撮影

※ガガイモ: 日当たりの良い林縁部などで観察できる。白花の種類があり“シロバナガガイモ”と呼ばれている。 8月29日撮影

※コバノカメヅル: 2、3m ほどの蔓に多くの蕾を付けて紫褐色で1cmほどの星形の花を咲かせる。個体数は非常に少ない。 8月29日撮影

東久留米の野草(6月から8月までに観察した植物)No.2



※ナガエミクリとミクリ[両種とも準絶滅危惧種]: 市内での生育数は“ミクリ”が少なく、“ナガエミクリ”のほうが多い。順に6月7日、8月18日撮影

※ガマとヒメガマ: 穂の茶褐色部が雌花で頭頂部が雄花。“ガマ”の雄花には綿毛が付いており、“ヒメガマ”の雄花は棒状で下半分が緑。両種の他に、市内では数は少ないが“コガマ”も生育している。両種6月29日撮影

※ホタルブクロとヤマホタルブクロ: 両種とも陽の当たる場所を好む。前者は萼片の間の複萼片が反り返り、後者が萼片の間が盛り上がる。両種6月9日撮影

※ツリガネニンジン: 山野で普通に見られた種類だが少ない。市内では絶滅危惧植物。刈られると丸い根生葉が芽生え再度茎を伸ばす。8月3日・20日撮影

※ヤブレガサ: 山地性植物であり温暖化などの要因も加わり減少傾向。市内では絶滅危惧植物。6月7日撮影

東久留米の野草(6月から8月までに観察した植物)No.3



キク科セイヨウタンポポ



キク科アキノゲシ



キク科カントウヨメナ



キク科コヤブタバコ



キク科ノハラアザミ



キク科アメリカオニアザミ



キク科オオキンケイギク



キジカクシ科オオバジャノヒゲ

※セイヨウタンポポ： 市内各所で見られるおなじみの外来種。市内では春頃に減少傾向の在来種“カントウタンポポ”も観察できる。 6月7日撮影

※アキノゲシ： 1年または2年草のためか市内では多くはない。日当たりの良い場所に生え、草丈が2m 程まで生長する大型植物。 6月29日撮影

※カントウヨメナ： 湿潤な場所を好む在来種。市内の中小河川などの川筋で多く観察することが出来る。 7月28日撮影

※コヤブタバコ： 草丈50cm程でよく枝分かれする。円柱形の頭花は緑白色で径15mm程。市内では“ヤブタバコ”が多く“コヤブタバコ”は少ない。 8月24日撮影

※ノハラアザミ： 市内で観察できる在来アザミ属は同種と“トネアザミ”。両種ともに減少傾向にあり以前生育していた“ノアザミ”は絶滅。 8月29日撮影

※アメリカオニアザミ[要注外来生物]： 全体が強力なトゲに覆われている厄介な植物。駆除方法は結実前の刈取りと根掘りする事。 6月16日撮影

※オオキンケイギク[特定外来生物]： 現在、栽培禁止植物に指定されている。“アメリカオニアザミ”同様の駆除が必要。 6月10日

※オオバジャノヒゲ： 比較的湿潤な林内で群生している。市内では開花している個体が減少傾向。 6月17日撮影

東久留米の野草(6月から8月までに観察した植物)No.4



キジカクシ科ヒメヤブラン



キジカクシ科オオバギボウシ



キジカクシ科コバギボウシ



キジカクシ科ノシラン



キジカクシ科ツルボ



サルトリイバラ科シオデ



シソ科ニホンハッカ



ススキノ科ヤブカンゾウ



ススキノ科ノカンゾウ

※ヒメヤブラン： 日当たりの良い林縁部などに群生している。“ヤブラン”とは違い目立たないことから見過ごすことが多い。 6月23日撮影

※オオバギボウシ： 山地性植物で“タマアジサイ”同様、水の連なりがもたらした“国内外来種”。生育数は非常に少ない。 7月1日撮影

※コバギボウシ：“オオバギボウシ”同様な生い立ちがあり“国内外来種”。生育地が早い段階で保全地域に指定されたことで保護されている。 8月8日撮影

※ノシラン： 資料では関東以西の海に近い林床に生える常緑多年草とある。内陸部である東久留米市の生育由来は不明。 8月29日撮影

※ツルボ： 市内の林や公園、団地の芝生内など普通に観察できる植物。日当たりの良い場所では一面を覆うほどに群生する。 8月24日撮影

※シオデ： 雌、雄異株の蔓性植物で他の植物に絡みつきながら2、3mまで蔓を伸ばす。写真の花は雄花。 6月20日撮影

※ニホンハッカ： 市内の河川沿いで普通に観察可能。但し、園芸種の同属の逸出や持込みも多くハイブリット種の危険あり。 7月29日撮影

※ヤブカンゾウ： 河川沿いおよび林内など市内各所で観察可能。 6月27日撮影

※ノカンゾウ： 市内では生育数が少なく、開花する個体も少なく感じる。“カイガラムシ”が花柄にびっしりとこびり付いている例が多い。 6月29日撮影

東久留米の野草(6月から8月までに観察した植物)No.5



ツリフネソウ科キツリフネ



ドクダミ科ヤエドクダミ



ナス科ヒヨドリジョウゴ



ハエドクソウ科ミゾホオズキ



バラ科ナワシロイチゴ



バラ科ダイコンソウ



バラ科ワレモコウ



ヒガンバナ科キツネノカミソリ



ヒガンバナ科ナツズイセン

※キツリフネ： 通常、山地の湿潤なところに生育。市内でも生育しているがタネや苗などの形で持ち込まれた“国内外来種”か。 6月10日撮影

※ヤエドクダミ： 純白の花に見える部分は葉が変化した総苞片で緑色した個体もある。一つ見つかりと周辺部でも観察できる。 6月20日撮影

※ヒヨドリジョウゴ： ツル性多年草で日当たりの良い林縁部などに多い。果実は熟すと艶のある赤色に変化するが有毒植物。 8月27日撮影

※ミゾホオズキ： 市内一部河川の水辺で観察できる。且つては近似種“オオミゾホオズキ”が生育していたとの資料あり。 7月21日撮影

※ナワシロイチゴ： 生育地では林床を覆うように繁茂する。赤く熟した果実は食用。 6月20日撮影

※ダイコンソウ： 生育地が限られており減少傾向。 7月21日撮影

※ワレモコウ： 日当たりの良い草原に見られる植物。市内では生育環境が見当たらないことから絶滅状態。 8月29日撮影

※キツネノカミソリ〔絶滅危惧Ⅱ類〕： 市内での生育地は多いものの各所で個体数減少傾向。新たな生育地が見つかり20株ほど確認。 7月19日撮影

※ナツズイセン： 市内の生育地および個体数とも少ない。市内では準絶滅危惧種。 7月27日撮影

東久留米の野草(6月から8月までに観察した植物)No.6



※ゲンノショウコ： 明るい草地や集合住宅地の芝地などで見られる。白花以外に赤花を咲かせるものもある。 8月24日撮影

※マキエハギ[絶滅危惧Ⅱ類]： 以前に偶然踏み込んだ雑木林で観察。同種の“ネコハギ”と類似するが茎から真直ぐに伸びた花柄が特長的。 8月11日撮影

※ネコハギ： 同種は、地を這うようにそして枝分かれして全体を覆うように生育する。時期を定めても開花した個体には中々巡り合えない。 8月29日撮影

※ヤハズソウ： 1年草。この種類も開花した個体には中々巡り合えない。また、葉の形が丸葉の種もあり“マルバヤハズソウ”※写真参照。 8月29日撮影

※メドハギ： 日当たりの良い林縁部や草地などで生育しており茎の高さは50cmから1m ほどと様々。花の形はマメ科独特の蝶形。 8月29日撮影

※エゾミソハギ： 市内では移入されたと思われる個体が川沿いに生育している。同属“ミソハギ”は市内では絶滅したと思われる。 7月25日撮影

※ヤマユリ： 日本原産のユリの一つで径20cmほどの大輪を咲かせる。市内では盗掘が絶えないことから大幅に減少。 7月18日撮影

※ウバユリ： 生育地とともに個体数も減少傾向。生育場所が見つかり一株開花したことから、この地は少なくとも6年程経ていると思われる。 7月21日撮影

東久留米の野草(6月から8月までに観察した植物)No.7



ユリ科オニユリ

ユリ科カノコユリ

ユリ科シンテッポウユリ

ラン科サイハイラン

ラン科ネジバナ

ラン科タシロラン

レンプクソウ科ソクズ

※オニユリ：草丈が1mから1.5m程の大型のユリの仲間。最大で20輪もの花を咲かせるものもあり種子ではなく“ムカゴ”で増える。7月18日撮影

※カノコユリ：国内では四国や九州が自生地。市内でも持ちこまれた？同種が生育している。開花した花はとても美しい。7月31日撮影

※シンテッポウユリ(未同定)：花の色合いや葉の幅などから“シンテッポウユリ”とした。市内でも逸出したと思われる同種が観察できる。8月11日撮影

※サイハイラン：同種は湿潤でやや薄暗い林内を好む。市内では現状を維持および場所によっては増加傾向で生育している。6月9日撮影

※ネジバナ：ラン科植物の中では唯一身近な場所で観察できる種類。花は左巻きに咲くものと、右巻きに咲く種類がある。6月20日撮影

※タシロラン：湿潤で落葉の吹き溜まりのような場所で多く見られる。その他の腐生植物では“オニノヤガラ”や“マヤラン”なども観察できる。6月29日撮影

※ソクズ：草丈が1mを超える大型植物。花期には、頭頂部に小さな白い花を多数つけ結実した実は光沢のあるオレンジ色。8月29日撮影